

知って安心 子どもの発達……佐久間路子

きつと

絵本で身に付く、文字を読む力

まだ文字の読めないはずの2〜3歳ぐらいの子どもが、お気に入りの絵本を、まるで字が読めるかのように音読することがあります。

表紙を見ながら題名を言ったり、ページをめくって読んで、またページをめくって読んで、を繰り返します。

自分で文字を読んでいるように見えるのですが、じつは絵本のお話を暗記しているだけです（暗記読みと呼びます）。

読み聞かせを繰り返ししてもらった経験から、お気に入りの絵本の内容を覚え、「たぬきさんが、いない」「ばあ」など、ページをめくるのに合わせて、話しているのです。

絵本を自分で読むようになるには

では、幼い子どもが絵本を読む、つまり絵本に書かれた文字を読めるようになるまでには、どのような発達過程が見られるのでしょうか。

まず、絵本に書かれている文字に気が付く必要があります。絵本には、絵の横や別のページに文字が書かれています。その文字の存在に気が付くと、手で文字をなぞり、暗記した言葉を口にしなから、読んでいるような姿も見られます。

次は、実際に文字を理解して読むようになる段階です。日本語のひらがなの場合、文字を読むた



さくま・みちこ ● 白梅学園大学子ども学部子ども心理学科教授。2003年、お茶の水女子大学大学院人間文化研究科修了。博士（人文科学）。専門は発達心理学、特に自己概念の発達。主な著書（共著）に『イラストBOOK 子どもの「こころ」をのぞいてみる』（ぎょうせい）、『生活のなかの発達：現場主義の発達心理学』（新曜社）などがある。

めには、一つの仮名文字に一つの音を対応させる必要があります。最初はよく目にするひらがな（例えば自分の名前）から少しずつ読めるようになり、読める文字が増えていくと、絵本に書かれた文字を読むようになります。

ですが、最初からスムーズに読めるわけではなく、例えば「たぬき」と書いてあった場合、「た・ぬ・き」と、一文字ずつ区切って読みます。長く書かれた文章をたどって一文字ずつ読んだあと、「何て書いてあるの？」と聞いてくることがあります。

すらすらと暗記読みをしていたのに、急に読めなくなってしまうこともありますが、実際は



これが文字を読めるようになる段階を踏んでいるということなのです。そして複数の文字の繋がりが意味を持つことを理解すると、単語ごとに、さらには文章を声に出して読めるようになります。

楽しく文字を覚えるために

文字への関心や読む力には個人差があり、読みの発達は4〜6歳の頃に進んでいきます。文字が読める前からの絵本に触れる経験、絵本を読んでもらう経験が、文字への関心に繋がります。

絵本だけではなく、街を歩いていて目にする文字（看板や駅名、好きなお菓子のパッケージ）など、私たちの身近にある文字に触れる中で文字に関心を持つようになり、読める字が増えてくる、文字を読むことが楽しくなってきます。

ただ単に覚えさせるのではなく、日常の中で文字への関心を育てていきたいですね。